

URL <http://www.pippo.co.jp/>Email [pippo@diana.dti.ne.jp](mailto:pippo@diana.dti.ne.jp)

# ピッポ新聞

2002

4

No.162

子どもの本専門店

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

## ピッポ

〒424-0886 清水市草薙1-6-3

TEL&amp;FAX 0543-45-5460

### ベスコフの絵本特集

リンドグリーンがスウェーデンの国民的な作家なら、エルサ・ベスコフ(1874年~1953年)は国民的な絵本作家といえるでしょう。彼女は6人の子どもを育てるかたわら、絵本の創作をしたという。その絵本はバートンなど、これまで優れた絵本を描いた絵本作家と同じように、自分の子どものために描いたということである。

ベスコフの絵本は、最初の絵本の出版から百年以上経つというのに、いまだにその多くは古典絵本として愛読されている。日本にもたくさん読者がいる。それに、なぜかこのところベスコフの絵本の出版活動が盛んで、未翻訳だった新刊や、復刊が立て続けに出版されている。



ベスコフの絵本の特徴は、大きく二つあるように思う。1897

年に出版された「ちいさな ちいさな おばあちゃん」(いしいとしこ・訳 126

0円 偕成社)が、その最初の絵本である。この絵本は、各ページのそれぞれの絵が、装飾的

な丸い枠のなかに描かれている。これは、当時の芸術の表現様式であるアール・ヌーボーの影

響によるもので、とりわけ、彼女自身はイギリスのウォルター・クレインに触発されたということである。彼女の絵本の多くにアール・ヌーボーの影響を見ることが出来る。

その絵には、ユーモアも多分に利いているのである。例えば、この最初の絵本でも、もう一人の主人公のネコが描かれている場面では、装飾の枠にネズミが描かれていたり、ネコヤナギが枠として使われていたりするのである。(ネコとネズミ・ネコとネコヤナギは一对ですからね) ご存知のように、北欧は、生活の近くに深く豊かな森がある。その森は昔から人々の暮らしに密着した存在(木の実やキノコを取ったり、猟をしたりする場所)であると同時に、不思議な生き物(トロール・小人・妖精)畏敬の念を抱く対象(多くの物語を紡ぎだし所)の棲む場所でもあった。(ぼくも、例えばグリムの昔話「赤ずきん」や「ヘンデルとグレーテル」なども、身近に大きな森が存在しているからこそ生まれた物語であることが、ドイツへ行って「なるほど」と納得したものである。)

ベスコフの絵本も、この豊かな自然があったからこそ、生まれたと言っても良いのではないだろうか。

彼女の絵本には、いろいろな植物や小動物、さらに小人や花の妖精などが登場することが多い。彼女は、これらの不思議なものたちに、自分の心情を託して描いたと言えるのではないだろうか。1901年に出された『ブルーベリーもりでのプッテのぼうけん』(おのであゆりこ・訳 1365円 福音館書店)や、『ウツレのスキー

のたび』(石井登志子・訳 1500円  
 フェリシモ出版)・1910年の『もりの  
 こびとたち』(大塚勇三・訳 1365円  
 福音館書店)はその代表だろう。

『もりのこびとたち』は、森に暮らす小  
 人家族の楽しい1年が描かれている。ここ  
 には、例えば、父親が、森で暮らしてゆく  
 ための知識や知恵などを暮らしの場面場  
 面から子どもに教えている姿が描かれてい  
 る。今の私たちが軽視しがちな家族の役割  
 といったものが、小人の家族を通してしつ  
 かりと描かれているのである。冬が目前に  
 せまると、家族総出で働く場面からは、こ  
 の絵本を読んだ子どもにも、多くのことが  
 伝わることだろう。

ベスコフの絵本のもう一つの特徴が、こ  
 こにあるとぼくは思うのだ。

1912年に出版された『ペレのあた  
 らしいふく』(おのであゆりこ・訳 115  
 5円 福音館書店)

には、その特徴が顕著に現れている。特徴  
 と言うよりも、ベスコフが1番絵本で語り  
 たいことと、言い換えた方が当たっている  
 かもしれない。



絵本の内容は、ペレは、自分で世話をし  
 ている子羊を飼っ  
 ていた。子羊はや  
 がて大きくなるが、  
 ペレの着ている服  
 は逆に小さくなっ  
 てしまった。ペレ  
 は羊の毛を刈って、  
 洋服を作ることに

した。まずはおばあさんに頼んで毛を梳い  
 て貰う。しかしここで、おばあさんは交換  
 条件にペレに畑の草を抜くことを求める。  
 こうしてペレは服のできる段階ごとに、  
 自分ができないことを、別の人に頼むので



があるが、その代  
 償を自分の労働  
 で支払っていく  
 のである。ここ  
 には、子どもだ  
 から与えて貰う

のが当然だ、というような考えは微塵もな  
 い。そのことが当たり前なこととして描か  
 れているのである。近頃この国では、家の  
 手伝をする子どもが少なくなっているよう  
 だし、させようという、大人も少ないよう  
 に感じるのであるが・・・。

もう一つ、この絵本は、物が完成するの  
 に多く人の手を経なければならぬことが、  
 絵を見ていくだけで子どもに伝わるのであ  
 る。このことは、現代のような大量生産の  
 時代には、子どもには理解しがたいし、学  
 校の勉強を通して習ったとしても、その心  
 まで伝えるのは難しいだろう。しかし、絵  
 本であるが故に、作者の心が、絵を通して  
 子どもに響いて行くのである。良い絵  
 本の素晴らしさってのは、こんなところに  
 もあるのだ！  
 すべてのことが複雑化している現代、何  
 が大切で、何が大切でないかが見えにくく  
 なっているような気がする。ベスコフの絵  
 本にはそれが、だれにでも分かるように描  
 かれている。

## ベスコフの絵本のリスト

| 書名                        | 定価    | 出版社     | 書名                 | 定価    | 出版社     |
|---------------------------|-------|---------|--------------------|-------|---------|
| ちいさなちいさなおばあちゃん            | 1260円 | 偕成社     | ブルーベリーもりでのプッチのぼうけん | 1365円 | 福音館書店   |
| もりのこびとたち                  | 1365円 | 福音館書店   | ペレのあたらしいふく         | 1155円 | 福音館書店   |
| おひさまのたまご                  | 1470円 | 徳間書店    | ウッレのスキーのたび         | 1500円 | フェリシモ出版 |
| ロサリンドとこじか                 | 1500円 | フェリシモ出版 | おやゆびひめ             | 1500円 | フェリシモ出版 |
| リーサの庭の花まつり                | 1680円 | 童話館出版   | ラッセの庭で             | 1470円 | 徳間書店    |
| みどりおばさん、ちやいろおばさん、むらさきおばさん | 1365円 | 福音館書店   | ちやいろおばさんのたんじょうび    | 1365円 | 福音館書店   |

ピッポにすべて揃っています。

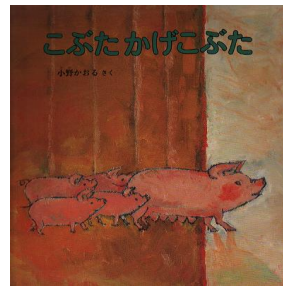
|                                  |                    |                    |                                 |                    |                |
|----------------------------------|--------------------|--------------------|---------------------------------|--------------------|----------------|
| ペッテルとロッタのぼうけん                    | 1365 円             | 福音館書店              | あおおじさんのあたらしいポート                 | 1365 円             | 福音館書店          |
| ペッテルとロッタのクリスマス                   | 1365 円             | 福音館書店              | ぼうしのおうち                         | 1365 円             | 福音館書店          |
| いちねんのうた                          | 1600 円             | フェリシモ出版            | しりたがりやのちいさな魚のお話                 | 1365 円             | 徳間書店           |
| おりこうなアニカ                         | 1155 円             | 福音館書店              | おもちゃ屋へいったトムテ                    | 1260 円             | 福音館書店          |
| どんぐりぼうやのぼうけん                     | 1470 円             | 童話館出版              | もりのこびとたち・スウェーデン語版               | 35000 円<br>古書絵本    | 文字部分に英語の書き込み   |
| BILBERRY WOOD・ブルーベリーもりでのプッチのぼうけん | 53000 円<br>洋書絵本の古書 | 1903 年の英語版の初版・状態は良 | CHILDREN OF THE FOREST・もりのこびとたち | 21000 円<br>洋書の古書絵本 | 1969 年アメリカ版の初版 |

表示価格は税込みです

## ねーこの本よんだ？

『こぶたかけこぶた』（小野かおる・作 780 円 福音館書店）

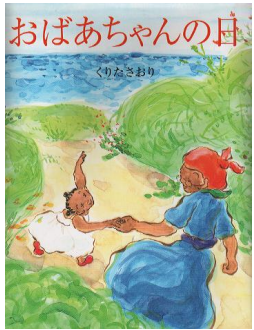
自分についてくる自分の影に驚いたことつて、きみにもあるでしょう。この絵本の子ブタたちも、初め自分の影の動きにお驚き、次にはその影といしょになって戯れる。同じようなことは、だ



れにでも一度や二度はあるんじゃないだろうか。そういえば、影踏み何て遊びもあつたっけね。このブタの家族のように、自分の影に気付いたら影とあそんでみたら、きっと面白いよ。3才ぐらいから

『おばあちゃんの日記』（くりたさおり・作 1050 円 偕成社）

田舎に住む大好きなおばあちゃんが出てくる。いつもはお婆ちゃんつちへ行つてたんだけど、今度はお婆ちゃんが来るのだ。二人の姉妹は、それがとてもうれしいのだ。お話は、お婆ちゃんとの家族が一日楽しく過ごす様子を綴っている。この絵本からは、家族がおばあちゃんと一緒に過ごす楽しさが、素



直に伝わってきて、こちらの気持ちも楽しいものにしてくれる。この作者は、この絵本が初めての作品だという。今後も、期待したい。年長児から

『あなたの小さかったとき』（越智登代子・文 藤枝つづ・絵 1260 円 福音館書店）

君はお母さんやお父さんから、君が赤ちゃんだった頃、どんな様子だったかを話してもらったことがあるかな？この著書は、自分の娘が小さかったとき大好きだった即興のお話が「母さんの小さかったとき」（福音館から既刊）と、「あなたの小さかったとき」だったそうである。君も初めて歩き出したときのことを聞いてみたいと思わないか。そのとき、君の両親がどんなにうれしかったかを聞いてみたい。この本をきっかけにして、



小さかった時のことを聞いてみるのも面白いかも知れないよ。だってね、その話は世界中でたった一つの、君と両親のだけの「お話」なんだからさ……。この絵本、だいたいの成長の過程が書かれている科学の絵本でもあるから、両親も、君のそのときどきを、思い出しやすいことだろう。小学生から

『へそまがり昔ばなし』（ロアルド・ダール・文 クエンティン・ブレイク・絵 灰

島かり・訳 1365円 評論社)

この本は、誰もが知っているシンデレラやジャックと豆の木などの昔話を、「チヨ



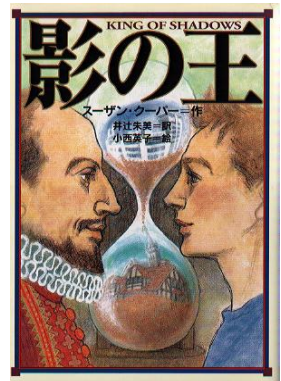
コレート工場の秘密」の作者であるロアルド・ダールが、パロディーに作りかえたお話集だ。だから、おもしろさは保証付

きだ。だってね、「赤ずきんちゃんとおおかみ」の話なんてさ、赤ずきんちゃんが、オオカミをピストルで撃ち殺して、その毛皮でコートを作って、着飾るんだからね・・・。「3んびきのこぶた」では、またまた赤ずきんちゃんが登場してオオカミをうちころすんだけど、最後に残ったコブタがどうなるとも思います？しりたければ、この本を読んでご覧よ！世の中甘くないってことがよく分かるよ・・・。 2年生ぐらいから

『影の王』(スーザン・クーパー・文 井辻朱美・訳 1575円 偕成社)

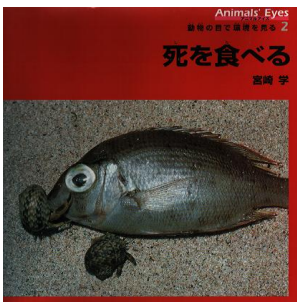
主人公ナットは、新グローブ座で少年劇団の一員としてシェイクスピアの「夏の夜の夢」の妖精パック役を演じることになっていた。ところが、突然具合が悪くなり、意識を失い、目覚めたところが、400年前のロンドンにタイムスリップをしていた。

そこで、ほんもののシェイクスピアと出会い、当時のグローブ座でエリザベス一世を迎えて、「夏の夜の夢」の初演に、シェイクスピアとともにパック役として舞台にたつたので



ある・・・。現代で、過酷な問題を抱えていた少年ナットが、シェイクスピアと出会い、芝居と一緒にやったことで成長をするという物語である。400年前の雑多なロンドンの様子や、人々の暮らしか風俗がリアルに描かれていて驚かされた。シェイクスピアを読みたくなる本であり、読み応えのあるファンタジーでもあった。

『死を食べる』(動物の目で環境を見る 2宮崎学・文と写真1890円 偕成社) 『死を食べる』という強烈な題名のこの本は、動物写真家宮崎学さんのカメラを通して、様々な動物の死が綴られている。最初は、交通事故で死んだキタキツネの死体はどうなっていくのか



中学生から

を追い、やがては土に還るまでを写真と説明文で伝えてくれる。その間、死体はいろいろな動物の餌になって分解されていくのである。生き物の死は様々な場所で繰り返され、その死体は他の生を支えている。そして、この本の結論は、私たち人間も日常的に魚や肉などを食べて生きているが、これはすなわち、他の動物の死を食っていることなのだと言わせてくれる。この本『動物の目で環境を見る』シリーズ全5巻の1冊 小学生から大人

## インフォメーション

宮崎さんの「お話の会」は、今月はお休です。

次回は5月25日(土)午後2時からピッポで開きます。

4月21日の井川県民の森の山菜採りは、申し込み多数のため締め切りました。秋にも、キノコ採りを計画しています。次回をご期待下さい。

## 編集後記

すみません！4月号の発行が大幅に遅れてしまいました。

例によつてのサボリ癖。3月の初めから、有度山のタケノコ堀に夢中になって、ほとんど毎日出かけていました。今はもう目で見えませんが、まだ地面の中にあるタケノコ探しはおもしろかったです。孟宗竹の次は「ハチコー」だ！これもおいしいよ。